

核戦争防止 兵庫医師の声

第83号 2011年8月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807

振替 01130-6-57830

2011年国民平和大行進

平和の思いをつないで

核兵器廃絶を求め全国の市町村を練り歩く「原水爆禁止国民平和大行進」が、7月7日に川西市から県内入りした。核戦争を防止する兵庫県医師の会からも、武村義人、加藤擁一小泉勇運営委員、榎林義雄先生らが、それぞれの地域で行進に参加した。

平和行進は1958年から毎年開催されており、全国の市町村を結び、行進距離は8千キロ以上におよぶ。今年も5月6日に東京を出発し、8月上旬に開催される原水爆禁止世界大会の開催地である広島をめざして、炎天下でも雨の日も休むことなく歩き続け、核廃絶を訴えている。

神戸市中央区原水爆禁止協議会会長でもある武村運営委員は、7月10日の神戸市役所から県庁までの行進に参加。出発前のあいさつでは「いよいよ沖縄の普天間基地県内移設が不可能なことが明らかになりつつある。私たちの運動で、米軍基地の国外移設を実現させよう」と呼びかけた。

加藤運営委員は県庁から須磨区役所までを行進。榎林先生は、手作りの「平和」の旗を掲げて、医院のスタッフとともに明石市内を行進した。

小泉運営委員は、7月8日の伊丹市役所出発のあいさつで行進参加者を激励。以下に小泉運営委員のあいさつを紹介する。

今年も七夕さんと同じく、1年ぶりに元気な皆さんとお会いできて喜んでいます。

しかし、今年は東北で原子力発電所が世界最大級の事故を起こし、地域の人々の健康と



神戸市役所前であいさつする武村運営委員 (上)

医院のスタッフとともに明石市内を歩く榎林先生 (下、右) 生活が悲惨な状況に追い込まれています。

元来、戦後間もなく、アメリカの原子力潜水艦の動力源として開発された原発が、米軍事産業と日本の電力を中心とした大企業の思惑によって日本に導入されたものゆえ、事故

など不測の事態に配慮されたものではなく、人間を含めた生き物の遺伝子を傷つけ、がんを発生させる放射線をまき散らすのを止める技術を持たぬまま、拡大されてきたものです。

今年は、私たちは原発をなくす一悪魔が出す排泄物をなくす運動も始めないといけないうちかもしれません。

しかし、根源である悪魔の兵器・核兵器が、今も世界中の平和愛好の人々の心に恐怖の圧力を加え続けています。

市民の力で一日も早く核兵器をなくすよう、今年も原水爆禁止世界大会を成功させましょう。
【運営委員 小泉 勇】



伊丹市役所前で、行進参加者を激励する小泉運営委員

第10回近畿反核医師懇談会 講演会「ヒロシマの体験、反核の思い」

世界に広げたい被爆体験

5月8日、大阪保険医会館会議室で、第10回近畿反核医師懇談会が、開催された。近畿反核医師懇談会は、07年に京都で開催した「核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」を契機に、近畿の保険医協会や反核医師の会、民医連などが参加する懇談会。今回は、兵庫協会から、林祐介運営委員長と武村義人運営委員、川西敏雄先生が参加した。

今回は、会議に先立って被爆医師であるIPPNW（核戦争防止国際医師会議）大阪支部の小田徹也先生が「ヒロシマの体験、反核の思い」と題して講演を行った。

小田先生は、戦時中、海軍の軍医学校を卒業するとすぐに呉にあった海軍病院に勤務しており、「朝起きて、病棟に行こうと外に出たら、空が光り、大きな音がした。一瞬何事かと立ちすくんだ」と原爆投下当日の体験を語った。その後、すぐに志願して、翌日には広島市内に入った先生は、当時の救援活動を「被爆者にはやけどの手当しかできなかった」と残念そうに振り返った。戦後、医師として、被爆者の血液のデータを分析し、学会で発表したがGHQに没収されたエピソードを紹介し、今でもあの研究を続けていれば、被爆者医療に役に立ったのではないかと語った。



被爆医師としての体験を語る小田先生（上）



熱心に講演に聴き入る参加者たち（下）

参加者からは「ぜひ先生の体験を来年広島で開催されるIPPNWの総会で世界の医師に語ってほしい」などの意見が寄せられた。

新聞報道などによって、アメリカが昨年12月と今年2月の2回にわたり、臨界前核実験を行ったことが明らかになりました。これに対し、兵庫県保険医協会では、池内春樹理事長名で抗議声明をアメリカ合衆国オバマ大統領宛に送りました。また、抗議声明は菅直人首相、松本剛明外務大臣にも送付しています。

アメリカ合衆国大統領
バラク・フセイン・オバマ様

2011年8月1日
兵庫県保険医協会
理事長 池内 春樹

貴国の核実験の強行に抗議する

新聞報道等によれば、貴国は、昨年12月と今年2月の2回、臨界前核実験を行ったことが明らかになった。核兵器の保持と新たな開発につながる核実験を強行したことに強い抗議の意志を表明する。貴国が未臨界核実験を実施したことは、明らかに「核兵器のない世界」に逆行するもので、被爆者をはじめ核兵器廃絶を切望する世界の多くの人々の期待や願いを裏切るものである。

この間、貴国は昨年5月に行われたNPT再検討会議で、「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを目標とする最終文書に賛成した。また、大統領は、昨年4月、核兵器を使用した唯一の国としての「道義的責任」にふれて、「核兵器のない世界」のための行動を呼びかけ、ノーベル平和賞を受賞した。

今回の未臨界核実験は、貴国のこうした「核兵器のない世界」に向けた動きとも大きく矛盾するものである。

日本では、東日本大震災・津波被災とそれによって引き起こされた東電福島原発の爆発・炉心溶融事故で放射性物質が大量に大気中に飛散し、住民が住み慣れた土地を追われ、いつ帰れるともわからない不安な生活を強いられており、あらためて放射線がもたらす事態の深刻さを全世界に知らしめることになった。

われわれは、世界中の医師たちとともに、核兵器を「人類を滅亡させる兵器」と位置づけ、その全廃を求めてきた。65年前に広島・長崎に投下された原子爆弾が、未曾有の惨禍をもたらし、今なお被爆者に、救いがたい健康被害と苦痛をもたらしている現状を直視すべきである。

今後、爆発を伴わない実験であれ、未臨界核実験であれ、いっさいの核兵器実験・開発計画を即時中止するとともに、核兵器廃絶条約の締結の協議開始などのイニシアティブを発揮することを強く要請するものである。

核戦争を防止する兵庫県医師の会 第30回総会・記念企画

被爆者の声を語り継ぐ

被爆50周年の2000年にアメリカで原爆展を開催した直野章子さんに、国が民間戦災者への援護を拒む根拠とする「戦争被害受忍論」と被爆者の現状についてご講演いただき、被爆65周年の2010年に国連平和デー（9月21日）に合わせて、国連本部のあるニューヨークで「被爆ピアノ平和コンサート」を開催し、音楽という世界共通の言葉で、「平和の尊さ・核兵器廃絶」を全世界に発信した「国連平和デー被爆ピアノ平和コンサート実行委員会」の演奏を披露いただきます。

●日 時：8月20日（土）

14時30分～15時 総会議事

15時～17時 記念企画

第1部 記念講演 「被爆者の声を聴いてきて」

講 師 直野 章子 氏（九州大学准教授）

第2部 被爆ピアノ平和コンサート

17時30分～ 懇親会（会費 5,000円）会場：未定

●会 場：兵庫県保険医協会
会議室

●参加費：カンパ制

●共 催：非核の政府を求める兵庫の会

どなたでも
ご参加いただけます



潘基文・国連事務総長の前で開催された被爆ピアノ平和コンサート

お申し込み、お問い合わせは兵庫県保険医協会（TEL 078 - 393 - 1807）平田・岡林まで

返信 F A X 078 - 393 - 1802

●反核医師の会 総会に

参加

不参加

●記念企画に

参加（ ）人

不参加

●懇親会に

参加

不参加

医療機関名（

）氏名（

）

♪♪出演者プロフィール♪♪



直野 章子さん

直野 章子 (なおの・あきこ) さん

兵庫県西宮市出身。現在、日本学術振興会特別研究員。高校卒業後、米アメリカン大学に入学。大学卒業後、米学生が広島で原爆について学ぶ特別講座を同大学に創設。スミソニアン博物館での原爆展論争を受け、被爆50年の夏、アメリカン大で原爆展を開催。カリフォルニア大学大学院に進学し、2002年6月、博士号(社会学)取得。その後半年間、ソウルの高麗大学に語学留学。2003年から広島平和記念資料館資料調査研究委員を務める。著書に『ヒロシマ・アメリカ—原爆展をめぐる』(第三回平和・共同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞)



林 琢也さん

林 琢也 (はやし たくや) さん

3歳からピアノを始める。2000年に1STCDアンプロンプチュ1を出版。2004年東京での小さなクラシックコンクールで小さな賞を受賞。2005年夏からプチャップライトを車に積み込み「どこでもピアノ」として各地で演奏活動中。子どもに人気の演奏スタイルが、多くのテレビ局で紹介され、評判を呼んでいる。被爆ピアノ平和コンサートにピアニストとして参加。2010年9月国連平和デー会議にて演奏。

石崎 育子 (いしざき いくこ) さん

ヘルマンハーブ奏者・ピアニスト。亀岡市で様々な音楽活動を展開するサロンアンダンテ代表。毎月第3木曜日に、お茶&おむすびを用意して開催される「おむすびライブ」は5年以上続いた亀岡市の名物ライブとして話題をよんでいる。近年はドイツ生まれのバリアフリー楽器ヘルマンハーブ普及の為、精力的な取り組みを行っている。被爆ピアノ平和コンサートにピアニストとして参加。2010年9月国連平和デー会議にて演奏。



石崎 育子さん

保険医協会会議室(神戸フコク生命海岸通ビル5階)



JR・阪神「元町」駅下車東口から南へ徒歩7分
お車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。

被爆者医療から見た 原発事故

—被爆者2000人を診療した医師の警鐘—

郷地 秀夫

(ごうち・ひでお)

医師、東神戸病院院長を経て、現在、東神戸診療所所長、兵庫県保険医協会副理事長、核戦争を防止する兵庫県医師の会世話人。約250人の被爆者の主治医として健康管理を担当するなど、2000人の被爆者と関わってきた。著書に『原爆症—罪なき人の灯を継いで』(かもがわ出版)がある。

◆ 目次 ◆

1. 巨大エネルギーによる破壊の恐怖
2. 原爆放射線被曝と原子炉事故被曝
3. 操作されてきた情報
4. 虚構の中の文部科学省
5. 何が真実か？放射線汚染の真実を求めて
6. これから心配なこと？
7. 日本の責任、私たちの責任
8. 被爆国の役割



A5判、112頁 定価 1,050円

被害者から加害者への道を避けるために
被爆者に学び、被爆国の自覚をもとう

長く被爆者医療に携わってきた反核医師の経験と立場から、福島原発事故による被爆の脅威を明らかにする。原爆放射線被曝と原子炉事故被曝、内部被曝と外部被曝などについて分かりやすく解説。被爆国・日本が被害者から加害者への道に陥るなど、警告する。

全国保険医団体連合会 会長 住江 憲勇

30数年被爆者の診療に携わる中で、原爆放射線がどういった傷害、困難を被爆者に突きつけてきたかをつぶさに見てきた本書の著者が、福島原発事故の今日をみて忸怩たる思いを込めて放った書である。今回の福島原発事故災害は、広島、長崎を経験した被爆国日本が全世界に放射線の恐怖と汚染を広げ、もはや日本は被害者から加害者になろうとしている。政府や東電からの報道や、これまでに公開されてきた情報には何かが不足している、そしてその何かがこそが真実の本質的な部分であり重大なことであり、そのことが明確にされていない。何がどう足らないのか、どう真実と違うのか、そのことがわからない。その謎の部分の少しでも明らかにするために書かれた必読の書である。

推薦します

兵庫県保険医協会 理事長 池内 春樹

兵庫県保険医協会副理事長で長く被爆者医療や原爆症認定訴訟に関わってきた郷地秀夫先生が、大江健三郎やパールバックを愛する詩人の目と、冷徹な科学者の目で3.11の福島第一原発事故を見つめ、「原発は原爆だ」「広島・長崎を経験した私たち日本人は改めてこれ以上被爆者を増やさないために核兵器と原発全廃を目指さなければならない」との立場から素晴らしい本を書き下した。巻末には全日本民主医療機関連合の原発事故対応マニュアルもあり、未来を担う子供たちのために是非全ての医療機関の待合室に備えていただきたい本である。

かもがわ出版

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入

TEL 075(432)2868/FAX 075(432)2869
ホームページ <http://www.kamogawa.co.jp>

兵庫県保険医協会 FAX 078-393-1802 TEL 078-393-1801

注文書

(フリガナ)
お名前
所属協会名
ご住所 〒
電話番号

メール

被爆者医療から見た原発事故
被爆者2000人を診療した医師の警鐘
郷地 秀夫

ISBN978-4-7803-0469-5 C0047 ¥1000E

部数

冊